

教育目標		予測不能な未来を自立して主体的に生き抜く、知・徳・体バランスのとれた「人間力」のある生徒の育成						
重点目標		(1)受容と共感にもとづいた生徒理解を基盤に、規律ある学校生活のもと、主体性、創造性、豊かな人間性、確かな学力を育む (2)全教育課程を通して、高い道徳性と人権意識を育み、保護者と地域との連携のもとで、共に支え合う仲間づくりを行う						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようにする。 教材や指導法などを工夫し、わかりやすい授業づくりに努める。 チーム学習・話し合い活動や発表を積極的に授業の中で取り入れ、学びの共同体づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なサクセスシートを全学年実施する。 ICT機器(スクールタクトなど)を効果的に活用し、意見を共有しあえる環境づくりを図る。 「笹トレ」を活用し、教え合いの基盤を定着させる。また、各教科の授業の中で効果的に「笹トレ」のノウハウを取り入れる。 「笹トレ」や定期テスト前の放課後学習、3年生の7校時学習の実施により授業時数を確保するとともに、地域と連携した土曜学習の実施により学力を保障する。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「授業はわかりやすい」の項目では86.9%が肯定的な評価(昨年度比-3.9%)であり、そのうちA評価は38.8%(昨年度比-4.2%)であった。昨年度と比べ低下しており、大きな課題である。授業は丁寧であるがマンネリ化しているため、生徒はよりレベルの高い授業を求めていると考えられる。 生徒アンケート「授業で話し合いや発表する場面で、積極的に発言できる」の項目は肯定的な評価が69.1%で、昨年度から8%高くなった。昨年度と比べ改善したが、まだ改善を要する値なので、「講義形式」ばかりになってしまっていないか常に見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のふり返りとして、サクセスシート(ふりかえりシート)は今後も活用していく。 単元テストや小テストを活用し、「わかった」「できた」の達成度を点数で可視化させる。また、内容もスムーズステップになるように組み立て、生徒に達成感をもたせるようにする。 「笹トレ」については、今後も問題の改良、取り組み等に工夫を重ね、今後も継続する。学年を越えて教え合い、学び合うことで学びを確実なものにするとともに、問題が解ける楽しさを味わいながら自尊感情(自己有用感)を育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業が「わかりやすい」については、生徒が受け身の講義形式から、生徒主体、思考する時間のある授業をお願いします。(バランスは必要だが) 誰一人取り残さない取組としては、いじめ対応・トラブル対応はもちろんだが、学校へ行くのが楽しく感じられる「わかる授業」が、不可欠と感じる。 学力差に合わせた授業づくりが難しいとは思いますが、一人一人の学びの意欲が下がらない工夫をお願いしたい。 習熟度も教科による向き、不向きを考えると、問題が解ける楽しさを味わいながら自尊感情(自己有用感)を育てていく。 「笹トレ」は、今後も進化・深化発展し続けてください。 先生方の努力に敬意を表します。
	新しい時代に対応した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、生徒の興味・関心を高め、効果的に学習に取り組めるように教材を工夫し、わかりやすい授業に努める。 学習のみならず、日常でも生かすことができるように、情報リテラシーの育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用を推進し、その状況が保護者に伝わるよう、授業参観やHP等でアピールしていく。 振り返り等にICT機器を活用することで、学習記録を基に、個別最適化された学習やアドバイスに活かす。 各授業の授業規律を保つ中で、情報リテラシーについても徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。 教職員のアンケート結果においては「A」「B」評価の割合が100%になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「電子黒板やプロジェクターなどのデジタル機器を授業に取り入れている」アンケート結果の肯定的評価が教職員95.0%、生徒97.6%、保護者97.1%と昨年度と同じく高い評価を得ている。ただし、A評価を比較すると教職員90.0%に対して、生徒77.4%、保護者51.2%と結果に乖離がある。 教職員、生徒、保護者共に学習面において、ICT機器を活用することが標準化されていると考える。 一方で、A評価のアンケート結果に乖離が見られたように、教職員はICTを活用できていると考えているが、生徒、保護者共に活用できているとまでは感じることが考えられる。 生徒、保護者が学習でICT機器を活用している実感できるようなICT機器の活用方法を各教科で研修していく必要がある。 スマホやタブレットの普及率の高さから、ICT機器を操作することができる生徒は多い。しかし、情報モラルや使用方法で未熟な面も見られるため、情報リテラシーの育成も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新年度開始の時期に、シラバスの検討と共に、各教科でICT機器の効果的な活用方法について検討する。 生徒も日常的にタブレットを使用するようになってきているからこそ、情報機器の適切な使用方法について、スマホ講演会などを開催し指導をしていく。 生徒、保護者が、学習でICT機器を活用している実感できるようなICT機器の活用方法を各教科で研修していく必要がある。 生徒は、日常使いをしているので、どんどん先へ進んでいる。教員側も常にアップデートすることが不可欠である。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報端末を使うことよりも、いかに活用するかという段階になっているので、教師側が飽えず学び続け新しい技術を取り入れることが大切です。チャットGPTなどを活用し効率よく学ぶ時代。 ICT機器の使いこなしは生徒の方が進んでいる場合もあるので、活用ルールやマナーは、繰り返し指導が必要だと思ふ。 ICT機器の活用効果は指導による差が生じやすいと思う。「リサーチ力、質問力、計画力」などを育成するために、生徒一人一人が、具体的に調べ、考えることに取り組んでほしい。(個別最適化) ICT化が進む中、先生方の苦労は大変かと思いますが、アップデートをお願いします。

主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	
学校教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	家庭学習の充実 ①家庭学習の習慣化の推進 ②デジタル教材の活用	<ul style="list-style-type: none"> 各教科より進度や理解度に対応した課題を出すことで、家庭学習の習慣化および充実を図る。 授業内容の確認や学力向上の成果が見られる課題を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストの充実を図るとともに、生徒自ら課題を発見して、家庭で取り組めるような学習のシステムを構築する。 生徒が意欲的に取り組み、率先して提出しようと思える課題にするために、提出後の点検をスムーズに行い、次の学習への意欲が高められるような、励みになるコメントや間違いの訂正、疑問点への回答など個別の指導に努める。 家庭内で学習する環境に課題がある場合は、放課後学習や土曜学習などを通して、学校で学習時間を確保し、自主学習の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「各教科や学年ごとに与えられる課題(提出物)は、家で取り組んでいる」の項目は肯定的な評価が82.5%だった。 サクセスシートを家庭学習で生かせる教科とそうでない教科があった。 宿題を家庭ではなく学校で取り組んでいる生徒が多いという実態から、家庭学習の習慣化については個人差が大きいことがわかる。 いくつかの教科で、「ドリルパーク」を用いて、生徒自ら課題を見つけて取り組む家庭学習のシステムを実施し始めており、今後の学習意欲の向上につながる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> サクセスシートについては、研究テーマとリンクして、効率のよい活用を考えていく必要がある。 家庭学習の習慣が身につけていない生徒を中心に、タブレット等を活用しながら保護者とも連携し、生徒の自主学習力の向上を図る。 各教科で課題を出す際に提出締切を明らかにするとともに、学級の連絡ボードを活用し、取り組むべき課題の見え方を図る。 生徒が課題を提出日締切当日に学校で慌てて取り組んでいる様子があれば声かけをし、事前に取り組むよう促す。 単元テストの位置づけを明確にする。 生徒が主体的に家庭学習に取り組めるようなシステムの構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 中学校に入って課題が多くなるので、計画を立てて学習する力が必要です。それを見据えて小学校高学年あたりから提出締め切り日等を意識して取り組む習慣づけをしていきます。 ICT機器で個別学習しやすい環境は整ってきているので、生徒への指導・保護者への啓発を再度お願いしたい。 ただ、簡単なゲーム形式・クイズ形式ばかりでは考える力が身につかない。 宿題の負担(全員一律の宿題)も検討する必要があるのでは。生徒が、効果を感じられる宿題の出し方を工夫してみたい。 「今日という日は明日という日の二分の値打ちがある」(ベンジャミン・フランクリン)。明日の100より今日の50が家庭学習では大事だと思う。 家庭学習習慣の定着には時間がかかるので、保護者との連携が不可欠ですね。PTAの会議で議題にしては？また、改善策をぜひ実行願います。
		「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止、早期発見、早期対応に向けての組織的な取組の推進 ③不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ④体験活動等の実施 ⑤スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導提要や本校生徒指導共通理解事項、いじめ対応マニュアル、笹ナビ(ルール表)に基づき、教職員が連携して組織的な対応を行う。 いじめ防止などのための基本方針に基づき、保護者や関係機関との連携のもと、適正な対応を行う。 生徒自ら正しい判断をし、よりよい学校を創り上げていくための、自治の力を育てる。 生徒の自尊心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針や指導方針、いじめ基本方針などを教職員が熟知し、深く理解した上で、あらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務に当たる。 学校生活におけるルールの教職員、生徒とともに再確認を行う。 学校のルールを、生徒会、PTA、地域と連携して見直したり、あるいは新たに作ったりするなどの活動を継続する。 日々の生活の中で、生徒が自主的に考える力を育むための機会を与える。 生徒の自尊心を育むための取り組みを行う。(成果物の掲示など) 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が90%以上になる。保護者と生徒両方のアンケートにおいてこれを達成したい。 不登校生徒数を令和5年度より減少を目指す。 学期毎の問題行動を令和5年度より減少を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「先生はいじめや友達とのトラブルにしっかりと対応してくれる」の項目は90.1%と昨年度と比較すると3.2%下がっている。保護者アンケート「学校は、いじめや子ども同士のトラブルなどしっかりと対応している」の項目は83.8%となっており、昨年度より6.0ポイント減少している。問題行動の件数が増加しており、1件ずつに対する丁寧な対応ができていなかった可能性がある。 問題行動の未然防止にさらに尽力し、ゆとりある教育活動を推進していく必要がある。また、組織として迅速かつ丁寧に対応できるように研修会等で意識の統一を図る必要がある。 職員アンケート「問題行動等に対して組織的に対応できる体制が整っている」の項目は90.0%で昨年度より3.7ポイント増加しているが、継続的に組織として体制の整備を図っていく必要がある。 不登校生徒数については、昨年度同期より、その出現率は5人増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 予測不能な社会の変化に適応し、多様化する生徒の状況に合わせた指導の在り方を常に考え、システムを構築していく。 学年だけでなく、学校全体として報告、連絡、相談の徹底を図る。また、保護者へのきめ細やかな連絡を徹底する。 生徒指導において生徒が主体的に考えられるような質問や声かけを行う。また、自主研修会の機会を活用し、教員の意識向上を図る。 生徒会の活性化を図り、生徒の自主性を高める行事や授業づくりを個々の教員が意識する。 クラスの生徒の状況を的確に把握し、支援が必要な生徒には個別に対応するとともに、ルールとリレーションのバランスの取れた居心地のよい、まとまりのあるクラスづくりに努める。 定期的な生徒会、PTA、地域と校則等に関して情報交換し、課題を考える機会を設定する。 道徳の授業の充実を図り、生徒に主体的に考える機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> 忙しい中、日々生徒と向き合いながら取り組まれていると感じます。 報告、連絡、相談の徹底をお願いします。保護者には、きめ細やかな連絡をすることで安心感が生まれます。 問題行動の未然防止に努め、生徒を見守る体制をお願いします。また、生徒が主体的に考えられよう取組もお願いします。 不登校については、小学校からいじめに引き継ぎ、安心して中学校で過ごせるようにしたい。 今年度の人権作文コンテスト朗読で、不登校を克服した生徒から、生徒の心を開いた先生の話があった。 学校はとても丁寧に対応していると思う。その一方で、多様性と社会性の狭間の中、学校が求められているものが、多すぎるのではないかと感じる。 心の教育については、学校だけでなく家庭、社会も担っていないと、先生方の負担が大変だと感じます。地域として声かけにくい時代ですが、見守りや声かけを続けたいと思います。 先生が気づきにくい「いじめ」もあるようなので、生徒みんな、防止に取り組めるような働きかけをお願いします。

主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価	
学校 教育	知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	読書活動の充実 ①朝読書の活性化 ②図書室利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を活性化して朝読書を活性化させ、読書活動を推進することにより、活字に慣れ、読解力を養う。 ・本とICT機器とのバランスの良い活用法を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書、スクールサポートスタッフ、図書ボランティアと連携し、開館や図書館便り、選書、図書館まつり等のイベントなど、生徒の図書館利用がより活性化する手立てを取る。 ・委員会活動を活性化し、生徒自身の力による図書館活動を推進する。 ・授業で図書館を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果において「A」「B」評価の割合85%以上を維持したい。 ・1ヶ月の平均読書冊数1人当たり3冊、平均貸出冊数1人当たり2冊を目標とする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「学校は朝の読書や図書館利用など読書に力を入れている」でのA評価が99.0%と、昨年よりも減少している。生徒が学校に対して読書に力を入れているという印象を持つには、毎年同じ取り組みを繰り返すのではなく、新しい取り組みを行い、図書館まつりの内容にも創意工夫を加える必要があると考えられる。 ・保護者アンケート「学校は朝読書や図書館の整備、図書館だよりの発行など、読書に親む機会を設けている」の項目は93.1%、生徒アンケート「学校は朝の読書や図書館利用など読書に力を入れている」の項目は79.5%と昨年度よりも向上し、教員アンケート「朝読書の徹底や図書館利用促進など、読書活動の推進に努めている」の項目は90.9%と昨年よりもわずかに減少したものの、良い数値を記録している。 ・しかし、どの項目もA評価よりもB評価の割合が高く、A評価の割合を上げるためには、その時期に応じた取り組みや、図書室や図書委員だけでなく、教師や保護者を巻き込んだ取り組みが必要であると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会を中心に普段からクラスや学年で声かけを行う。 ・学校全体として委員会と各学級や学年全体で図書館利用の推進を行う。 ・より多くの生徒が図書館に親しめるようなイベントや取り組みを計画し実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の効果は本を選ぶところから始まっているらしいので、本に向き合うきっかけづくりをしてみたい。 ・例えば、「修学旅行の行き先の地域とつながりのある話」とか「スポーツ小説今昔」など、定期的にテーマを決めてみるのも1つでは。 ・読書の楽しさを伝える取組やイベントを実施されているので、継続してください。少しずつ向上していくはずですよ。 ・今は紙の本を読む機会も減り、親も大人も新聞を読まない人が増え、家に本が少なくなっているのではないのでしょうか。授業・休み時間・放課後等、図書室利用可能時間を増やすしかないですね。 ・SNSやネット社会において情報があふれており、自分に必要のない情報に溺れている感がある。1か月に最低1冊は本を読んでほしいので、大人も含めてスマホを触らない時間を作っていただきたいですね。 ・図書室に電子書籍を入れる。入学式で新生入生に本を贈呈するなども1つの案かもしれません。
		「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康の保持増進のため、体力の向上を図る。 ・食育や健康指導を通して、心身ともに、健康な体づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、実行力を育むことを目指し、保体委員会をさらに活性化し、全校生徒に健康に関する情報を発信する機会を増やす。 ・病気や怪我の予防、食育など、健康増進に関する情報を掲示板や保健だよりなどで、引き続き広報する。 ・生徒への個別指導や保護者連絡をとりながら健康管理をすすめるなどの連携をとり、健康増進を目指した取り組みを推進する。 ・給食について、衛生面の指導、アレルギー対応を行う。 ・体力の向上につながる取り組みをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が90%以上になる。 ・保健だよりを定期的に発行する。 ・給食掲示を季節ごとに更新し、毎日の献立を掲示する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・関係するアンケートの項目では、生徒、保護者、教員全て90%を超えた。 ・保護者アンケート結果において、「学校が健康な体づくりについて教えているか」という項目でA評価が8.4ポイント低下した。 ・教員のアンケート結果において、「生徒の健康管理について家庭と連携、情報共有を図っているか」という項目でA評価が4.5ポイント上昇した。 ・保健や家庭科の授業を通して、病気の予防や健康な体づくりなどの健康増進について生徒に啓発した。また、掲示板や月1回発行の保健だよりを通して、定期的に健康に関する情報を発信した。 ・安心安全な給食実施に向けて、個人のアレルギー対応プランを作成し、家庭と連携しながら、毎月のアレルギー対応を確認した。衛生面での指導の徹底や備品の充実について、今後も継続して進める。 ・給食の残食は、ほぼゼロである。毎日の献立を掲示することで給食に対する意識が一層高まった。 ・昼休みに換気を促す放送を行い、全校一斉に換気を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して、健康に関する知識を習得するとともに、特に、スマホを使う時間や朝食を食べることなど、生活習慣について、学校と家庭が連携して健康管理について取り組みを行う。 ・自身の健康意識を高め、生徒の主体的な実行力を育てるため、委員会活動を活性化させる。 ・引き続き、掲示板、保健だよりなどを活用して、病気の予防の啓発をはじめとする健康に関する情報を発信する。 ・保健室の掲示物が生徒の目に触れる機会が増えるよう、掲示場所を増やす。 ・触ったり体験できたりできる掲示物を作成し、生徒の健康意識を高める。 ・保健だよりが生徒の目に触れる機会を増やすために、教室に掲示する場所を作り、毎月の張り替えを保体委員会の取り組みに入れる。 ・保健だよりが発行された時には、保体委員が内容の紹介を行い、全体へ見てもらうように促す。 ・学校給食を活用した食育に積極的に取り組む。 ・授業や部活動を通して、運動に組み込み、体力の向上につなげる。特に体育の授業においては、年間を通じて計画的に補強運動を組み入れた授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナをきっかけに手洗いや換気の意味、大切さを学べ、習慣化ができています。 ・残食がないのも、とてもすばらしく、体と共に心も大きく育っていると思います。 ・会話をしながら給食を食べるようになったのでしょうか。楽しく食事をするのが大切だと思います。 ・食事や睡眠などの生活習慣は、家庭との連携が大切ですので、協働して子どもの健康管理に努めていただきたいです。PTAへのPRも必要かもしれません。 ・また、生徒自身が健康意識を高められるような改善策の実施をお願いします。

主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校 教育	教育相談・支援体制の充 実 ①キャリア教育の推進 ②進路指導の充実 ③教育相談の充実	・生徒の将来を親身に考え、ひとり ひとりに合った進路実現に向けた 指導を行う。 ・正しい情報提供を図り、家庭との 連携に努める。	・進路学習資料を活用し、自分の 特性を見つめ、適切な進路を設計 する力を養う。 ・トライやる・ウィークの取り組みを 活用し、いろいろな職業があること を気づかせ、社会の一員になる意 識付けを行う。 ・教育相談や三者懇談の時間など を生かして、生徒だけでなく保護者 との対話時間も確保する。 ・1年生および2年生は毎学期、定 期的にキャリア(進路)学習を行い 将来への見通しと進路に向けての 意識付けを行い、希望を持たせる 取り組みをする。	・アンケート結果において、「A」「B」 評価の割合80%以上を維持する。	B	・生徒アンケート「学校は将来の進路に ついて正しい情報提供や指導をして くれている」の項目は92.2%(前年度 96.8%)だったが、保護者アンケート「学 校は将来の進路について正しい情報提 供や指導を行っている」の項目では 79.7%(前年度88.0%)と、生徒との意 識の開きがあり、前年度と比較しその 差が大きくなった。 ・今年度、保護者アンケートの評価が低 くなっているのは、保護者用の私立高 校の出前説明会の要望もあつたが、実 施できなかったことや、スクールタクトへ の配信が多かったが、Googleクラス ルームでの配信が少なかったことなど が原因と考えられる。 ・三者懇談会や教育相談などの機会を 生かして、個に応じた進路についての 対話時間を確保していくことができた。 ・トライやる・ウィーク期間中において、 事業所が定休日の際、私立高校に依 頼し特別講座を実施した。その講座を 通し、さまざまな進路先があることを知 るきっかけになった。	・感染症対策をしっかりおこなってい ながら従来通りの進路説明会を確保し ていくとともに、スクールタクトやGoogle クラスルームでの配信などを活用して、 積極的に情報発信し、伝える努力と確 実に届ける努力を続けていく。 ・私立高校の出前説明会を生徒だけで はなく、保護者対象でも実施できるよ うに私立高校との協議が必要である。 ・新生活様式の中で進路情報も刻々と 変化していている。本年度もWeb出願 の高校が増え、手書き願書での出願は 少数派となった。操作方法や受験料振 込のタイミングなど保護者との意思疎 通をしっかりと図り、連絡を密にする必 要がある。 ・学校における進路の取り組み内容や 関連する活動を計画的に推進すると ともに、保護者にも進路通信などを活用 し、引き続き、積極的に情報を発信する 意識を持って伝えていく。	・最近の進路の多様化に驚きます。親 世代より学校の選択が増えていること から、生徒だけでなく保護者へも早い段 階からの正しい情報提供や進路指導 が重要になる。 ・様々なツールを使いながら情報発信 し、伝える努力と確実に届ける努力を 続けていくことで、保護者の評価も上 がると思います。 ・進路情報も刻々と変化していると思 うので、ICT機器を上手に活用できれば 必要な情報が手に入ると思います。生 徒、保護者との連携を図る中で、調べ 方を共有するといいかもかもしれません。
	特別支援教育の推進 ①伊丹特別支援学校の活 性化 ②特別支援教育の充実	・特別支援学級生及び必要に応じ て通常学級の生徒に対しても個別 の指導計画を作成し、適切なサ ポート体制を強化する。 ・特別支援教育に関わる教職員だ けでなく教職員全体で、日常的に 連携をはかりながら、特別支援教 育推進委員会や学年会議などで生 徒の情報を共有し、適切な支援に つなげる。	・個別の指導計画の作成が生徒支 援の充実につながるよう、適切な 時期に適切な方法で作成し、学年 の共通理解につなげる。そのため に、特別支援教育推進委員会から 全教職員に周知し、サポートファ イルの内容を検討する。 ・配慮が必要な生徒、個別の支援 が必要な生徒を年度当初に確認 し、特別支援教育推進委員会で共 通理解する。生徒情報入力ファ イルを作成し、毎週木曜日に行う特 別支援教育推進委員会で情報共 有を行う。	・アンケート結果において、「A」「B」 評価の割合が80%以上になる。	B	・アンケートでは、前年度よりも「A」「B」 評価が増加し、「A」「B」評価合わせて 80%を超えた。 ・個別の指導計画の作成が定着し、学 年の中で個々の生徒について活発に 情報共有がされるようになり、特別支援 教育への意識は高まっている。 ・サポートファイルを同じロッカーで管理 し、全校で誰もが指導計画を把握する 事を継続した。 ・特別支援教育推進委員会で個別の支 援が必要な生徒の共通理解を図ったこ とで、学年間での情報共有がスムーズ に行われるようになった。特に委員会メ ンバーの経験から進路の情報が共有さ れ、具体的な支援の方向性を学年に伝 えることができた。 ・通級指導が定着し、個に応じた指導 が充実した。	・特別支援学級担任、生徒支援担当、 通級担当、特別支援教育支援員、保健 室、関係機関など、様々な立場の教職 員が情報を共有し連携することで、一 人一人の生徒をよく見て様々な機会を 捉えて支援を行うことができるよう なってきた。これからも対話を重ね ながら、生徒が必要な支援を受けられ る手立てを講じる努力が必要である。	・より多くの先生方がスムーズに情報共 有することで、一人一人の生徒の状況 もわかり、支援する体制・個に応じた指 導ができています。先生方の 努力がうかがえます。大変だとは思 いますが、ぜひ続けてください。 ・今後も支援の必要な生徒の人数は増 えると思うので、特別支援教育は一層 大切になると思います。ぜひ、改善策を 実行してください。 ・全学級に特別支援の教員がいてくれ たらいいなと思います。

主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
学校教育	教職員の資質向上 ①研修等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者の評価や学力調査の結果を検証し、授業等の改善や工夫につなげる。 学力向上のための手立てを共有し、効果を検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の中にプロジェクト型学習を取り入れた、授業づくりを行う。 効果的なめあてを検討するための研修会や強化週間を設定する。 授業スタンダード「笹スタ5」を基に普通の授業の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート「毎回の授業で「めあて」が示されている」の項目でA評価が、6ポイント増加し、定着してきている。 生徒アンケート「授業の最後に学習内容を振り返る活動が行われている」の項目でA評価が0.7ポイント減少し、教員アンケート「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っている」の項目でA評価が10ポイント増加した。これらのことより、教職員が思っているほど、生徒自身はふり返りが定着していないことがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修を重ねる中で「めあて」と「振り返り」を意識して取り組む場面が増えてきている。今後も改良を重ねながら、より効果的な「振り返り」方法に発展できるよう取り組み続ける。特に、「振り返り」の質の向上と内容の差別化・明確化を行う。 保護者へのアンケートの中で「先生は生徒の学力向上のため、授業の工夫や補習の実施などに努めている」の項目でA評価が25.4%であり、昨年よりも4.5ポイント減少している。保護者をはじめとして、授業を見てもらう機会を増やしたり、授業評価アンケートからしっかりと分析して、授業を受ける側の立場に立った理解を、もっと深めていかなければならないので、授業改善に最善を尽くすためにも、教科部会の機会を増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を受ける側の立場に立つことは大事だと思います。先生方もそれぞれ努力されていると思いますが、自己満足にならないよう、授業の質を上げる取組を続けてください。 授業は、生徒と教員とのキャッチボールのようなところがあるので、双方がおもしろいと感じる授業・楽しいと思う授業を探求し続けるしかありませんね。(大変だとは思いますが。) 自己肯定感を高める手立ては、今の自分を見取り、高めていくことが近道であると考えます。 授業の振り返りは、小学校の時から大切にしているが、続けることで「書く力」が付き、学力も向上しているのがわかる。
教育環境の整備・充実	学校を支える組織体制の整備 ①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティスクールとしての取組を充実させるため、学校運営協議会ならびにPTA本部との定例会を開催し、保護者や地域と相互理解を深める。 学校行事やオープンスクール等の実施により、学校教育活動について保護者や地域との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会やPTAを中心に学校支援ボランティアへの参加を促し、活動の活性化を図る。 生徒会を中心として、地域ボランティア活動の活性化を図る。 学校だよりや学年だよりなどの配付物のデジタル配信、正門横や校内の掲示板への掲示、地域の会議等への参加、ホームページの随時更新等により、学校教育目標や教育方針、行事、授業等の様子を発信し保護者や地域の人々に広くPRする。 学校行事やオープンスクールなどを保護者や地域に広く案内し公開するなど、学校への来校や学校教育活動への参加の機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回学校運営協議会ならびに月1回PTA本部との定例会を開催し、情報交換を行う。 生徒アンケートの項目「地域活動に参加したい」の「A」「B」評価の割合が、75%以上になる。 学校だより、学年だより、その他配付物についてデジタル配信を行うとともにホームページを週5回以上更新する。 学期に1回オープンスクールを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年4回の学校運営協議会および月1回のPTAとの定例会を開催し、学校教育活動の様子について情報提供するとともに、各行事の開催方法や校則等について協議した。 保護者や地域住民による学校支援ボランティア(図書・園芸、土曜学習)の活動が定着し、内容も充実している。 生徒アンケート「地域の行事に参加したい」の項目では、肯定的な評価が昨年度と同じ73.5%となり、目標の75%に届かなかった。 「さきはら祭り」の準備・後片付けの協力や祭りへの参加を生徒に広く周知した。また、地域のこども園や小学校と連携し、「笹フェス」の会場として地域と連携してイベントを開催した。 学校だより、学年だより、学級だより、その他の配付物について、GoogleFormsおよびSchooltakt等を活用してデジタル配信を行うとともに、学校HPは週5回以上更新した。 生徒アンケート「学校だよりや学年だよりなどで学校のことがよくわかる」の項目では92.5%、保護者アンケート「学校は、学校の教育方針や行事、活動などを学校だよりや学年だより、ホームページなどを通じて保護者に伝えている」の項目では94.2%が肯定的な評価となった。 体育大会、文化祭の開催および学期に1回オープンスクールを実施したが、保護者アンケートでは「教育活動を公開している」は、2.4ポイント減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会委員やCSコーディネーターと連携し、ホームページやコミュニティスクールだより等を活用して、地域や保護者へ学校教育活動の様子を積極的に発信する。 生徒会を中心に参加型地域学習などを企画する(笹フェスの継続等)。 学校だよりや学年だよりをデータで配付した。生徒の92.5%、保護者の94.2%が肯定的な評価であった。 地域へのボランティア活動を引き続き推進する。 個人情報に留意しつつ、各種行事や講演会、部活動など学校の様子が具体的にわかるよう随時ホームページを更新し啓発に努める。 ボランティアマスターの認定を継続する。 学校HPで公開している「1週間の生徒の様子」を、正門横掲示板に掲示し、地域の方に見ていただいている。このまま継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 笹原中の学校運営協議会は、いつも活発な熱議がなされ、すばらしいと感じています。 学校支援ボランティアさんも活き活きとされ、HP公開までふくめ、みんなで創る学校のモデルの1つと感じます。 HPで、ほとんど毎日の様子がわかるので、楽しみにしています。 地域との連携(行事)もコロナ前に戻りつつあるので、今後も継続をお願いいたします。 防災や避難訓練(地震発生時など)などにおいて、中学生が地域でできることは何かを考え、今後さらに交流が増えるといいですね。中学生の果たす役割は大きいです。 小学校のように、地域の回覧板を活用するのも良いと思います。

主要 施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
教育 環境 の 整備 ・ 充実	安全・安心な教育環境の 充実 ①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校施設の整備・維持 ⑤学校における働き方改革の推進	・自転車交通安全教室や防災訓練を通して安全に生活する事や自分の命を自分で守ろうとする意識を高める取り組みを行う。 ・災害や犯罪から身を守るすべについて、具体的に学習する場を設ける。 ・清掃活動を活性化し、教育環境を整える。 ・安全点検を徹底し、安全・安心な学校づくりを進める。	・自転車交通安全教室を発達段階に応じて内容を吟味して実施する。 ・年2回の防災訓練に向けた事前学習の徹底を図り、防災意識の高揚を図る。 ・防災や安全に関する情報を随時活用し、実生活とのつながりを意識させるような学習を企画する。 ・実態に即した防災マニュアルの見直しと作成を行う。 ・美化委員を中心として清掃用具の整備を行う。 ・安全点検を実施するための時間を確保する。 ・「もくもく清掃」に取り組む。 ・学校環境をきれいな状態に保つ。 ・委員会の強化月間において、クラスの見直し期間を設ける。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。 ・年2回避難訓練を実施する。また、訓練の実効性を高めるため、毎年度、訓練の実施方法を見直す。 ・講話や講習などを年3回以上実施する。 ・月1回、清掃用具の破損や不足を点検する。	B	・生徒・保護者アンケートともに該当項目において90%近い肯定的な評価を得ているが、令和4年度に比べるとややポイントが下がった。 ・教職員では80%を下回る項目が見られた。 ・災害を具体的に想定した訓練の実施を含め、年2回の防災訓練を実施できた。 ・1年生対象に自転車交通安全教室を実施した。 ・2・3年生への自転車交通マナーの注意喚起の講習・講話は実施できなかった。 ・生徒が綺麗に施設や用具を使用する意識が高まり、アンケートでも生徒・保護者ともに、90%以上が良い評価をつけている。 ・行事予定にも安全点検実施と記載しているが、取り組みを促すアナウンスができていなかった。 ・月1回の専門委員会後、清掃用具箱の中の掃除用具チェックを着実にやっている。 ・美化委員の朝の掃除や落ち葉拾いは、活動期間を前年度の取組から見直し、期間をずらして2回実施した。 ・「もくもく清掃(無言清掃)」が新入生にも少しずつ定着しているが、「もくもく清掃」ができていないと言いがたい。	・1月の地震想定防災訓練では、前年度に引き続き生徒への予告なしで実施し、さらに通行不能箇所を設定した。今後も、より実効性の高い訓練のあり方を模索していきたい。 ・2・3年生を対象に自転車に関する知識を身につけさせる。特に、運動部の夏の総体前に、全校集会などで、安全担当者から自転車運転に関するルール確認、マナーについて講話を行う。 ・学校内にある非常時や災害発生時に必要な物品を総点検し、数や所在を一覧でわかるようにまとめた地図状のものを作成する。 ・美化委員を中心として、月1回の掃除用具の点検と整備活動を行う。 ・月1回の安全点検を呼びかけ、教員の点検漏れがないかを分かりやすくするために、紙でのチェックからデータ入力へと変更したので、係りから各学年への遅かったデータ入力の声かけを各小からも徹底する。 ・「もくもく清掃(無言清掃)」時に喋ってしまう生徒がいるため、生徒への注意を美化委員にさせる。また、指導時になぜ「もくもく清掃」を行っているのかを伝える必要がある。 ・朝の清掃活動や落ち葉拾いはボランティアや部活動と連携してする。 ・現在使っている机と椅子を、古いものは新しいものに入れ替えていく。	・歩道を歩いていると後ろからかなりのスピードで追い越していく自転車が危険を感じる時があります。生徒が登下校時にまわって歩いているのを見かけると、車だけでなく自転車も危ないということを含め、実践的な指導をお願いします。 ・職員アンケートにおいて、自転車のルールに関する数値が低いのは、「指導不足」と捉えているのか、「生徒が守っていない」と捉えているのか。 ・予告なしの防災訓練は良い取組だと考えます。いつ発生するかわからない地震ですので、防災訓練により真剣に取り組み、生徒の意識の向上につながります。 ・来年度小学校では、地域の方との合同防災訓練を考えています。できるだけ多くの方に来てもらえたらと思います。学校が災害時の拠点となれるよう各小中学校が準備する必要があると実感しています。 ・災害時における地域の中学生の役割は極めて大きいと感じる。避難所の設営やブルーシートテントの設置など、地域と連携した活動ができないか。いざという時に大きな戦力になれる中学生を！ ・アンケートの数値だけではわからない部分もあると思いますが、概ね良い評価であり、先生方の努力の賜だと思います。

学校関係者評価総括
 ・ここ数年、生徒が落ち着いた学校生活を送れている。あいさつをする生徒も多いし、生徒自身が考え行動している様子うかがえる。体育大会を親で感じた。地域への関わりも積極的に行っている。
 ・生徒アンケートではAの割合が高いが、保護者アンケートでは生徒より低い項目がある。これらについて分析をさらに進め改善してほしい。家庭(保護者)と地域との連携を深めることで、生徒の成長が図れれば、学校に対しての評価も、もっと上がってくると考えられる。
 ・「中学校が楽しい」と小学校に遊びに来た卒業生が報告してくれる。中学校の教育方針がわかりやすく、行事が充実し、学力向上に努めていることなどが、生徒もたちにも伝わっていると感じる。小学校でも、より一層小中連携を意識したい。
 ・昨年より、トイレ掃除が少し甘くなっている気はする。
 ・自尊心の高揚、自主性の向上、家庭学習の充実など、生徒が将来生き生きと活躍できるよう、教職員の意識をさらに高め、連携を深めてください。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・中学校入学後すぐに生徒が将来について考える時間を今以上にすることができれば、自己評価、学校へ行く意味や楽しみ、目的などが明確にでき、学校に登校しづらい生徒が減るのではないかと。
 ・生徒と教員の一層の信頼関係
 ・豊かな人間性、人権意識、積極性、創造力
 ・進路や学力への情報開示と共有
 ・家庭学習の充実

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どおりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った